

「日の丸・君が代」を国旗・国歌とする法案に反対する

「日の丸・君が代」はかつてアジア諸国を侵略した日本の象徴であった。日本政府は、過去の侵略戦争への反省もないまま、「日の丸・君が代」を国民に定着したものとして法制化を強行しようとしている。これまで教育現場では、学習指導要領の改訂のたびに「日の丸・君が代」を国旗・国歌として強制化する試みが強引に繰り返されてきたが、多くの学校でそうした強制への反発を招いてきた。これは、「日の丸・君が代」を国旗・国歌とする国民的な合意が得られていないにもかかわらず、無理やりに押しつける政府のやり方に道理がないことの証である。

また、この間マスコミでも「日の丸・君が代」問題が取りあ上げられ、この問題について国民の間に議論が高まろうとしている。ところが政府はその議論に耳を貸さず、法制化は拙速であるという世論をも無視し「国旗・国歌に関する法案」の審議を政党どうしの利害関係による国会内の数合わせだけで衆議院を通過させた。参議院でも同様に実質的な審議がなのまま通過させようと進めている。これは未来に禍根を残す歴史的な重大な誤りであるといわざるを得ない。

この法案が可決されれば、学校現場への強制が今以上に増すことは明白であり、それによって思想・信条の自由さえ侵害されることになりかねない。われわれは、恒久平和、国民主権の精神をないがしろにする国旗・国歌に関する法案の成立に強く反対する。また、教育現場等への「日の丸・君が代」の強制に強く反対する。

以上決議する。

1999年8月1日

地学団体研究会第53回総会